

## 女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：宇宙航空研究開発機構（総括責任者：奥村 直樹）

## プロジェクトの概要

理事長のリーダーシップの下、支援室を設置し、専任のコーディネーターを配置する。また、「人材育成委員会」において、女性研究者の採用・登用促進のための数値目標の設定、基本方策等の策定等を行うとともに、PDCA サイクルで進捗状況のフォローアップを行う。

具体的な活動として、①育児・介護期間中の研究者を擁するチーム等のパフォーマンス維持のための支援員の配置(延べ年間5名程度)、②フレックス・短時間・在宅勤務や復帰支援の制度整備、③夜間・休日保育、病児・病後児保育、学童保育のためのサポート制度の活用、④研究開発力向上のためのメンター活用・研修、⑤男女共同参画の意識啓発セミナー、⑥女子学生等を対象にした進路支援等を行う。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

航空宇宙分野を専攻する女性研究者の絶対数が少なく、また、機関における勤務形態も多様な中、女性研究者対象のニーズ調査結果を踏まえ、理事長主導で柔軟な勤務態勢の構築、研究環境の整備や意識改革を進め、女性研究者の離職を減少させるとともに、女性研究者の採用を促進し、女性研究者の在籍者数を増加させたことは評価できる。また、ロールモデルの提示、グローバル・メンター制度の構築、スキルアップセミナーやマネジメントセミナーの開催等、様々な取組を通じて、女性研究者の研究業績が大幅に向上したことも評価できる。

- ・**目標達成度**：航空宇宙分野を専攻する女性研究者の絶対数が少ない中、女性教授相当者の採用、女性研究者の研究業績、離職率、在職比率に係る所期の目標を概ね達成したことは評価できる。一方、女性研究者の採用比率については、経験者採用が難しく、目標を達成できなかったが、新卒者採用は目標値を大きく上回った。
- ・**取組**：アンケート調査の結果を踏まえ、女性研究者を主体としつつ、機関の全職員がワーク・ライフ・バランスを実現できるよう、研究環境の整備や意識改革に係る幅広い取組を推進したことが女性の活躍促進に繋がっており、評価できる。
- ・**取組の成果**：航空宇宙分野を専攻する女性研究者が全国的に少なく、長期的な時間シフトによる勤務体制等、勤務形態も多様と課題の多い条件下において、機関をあげて女性研究者の活躍促進に取り組み、女性テニユア研究者を 29 名増加させ、上位職の女性研究者数を増加させるとともに、研究業績を大幅に向上させたことは評価できる。
- ・**実施体制**：理事長を総括責任者とし、国内広域に事業所が点在する機構全体の横断的組織とし

て「男女共同参画推進室」を設置して、専任コーディネーター等を配置するとともに、各事業所に室員を配置し、「男女共同参画推進室」と各事業所との連携を図りながら取組を進める実施体制を構築したことは評価できる。

- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後は、「男女共同参画推進室」を発展的に改組し、「ワーク・ライフ変革推進室」に改組し、より効率的かつ効果的な業務運営により、ワーク・ライフ・バランスの改善に取り組む計画であり、資金規模はやや縮小するものの、事業実施のための自主経費を確保しており、今後の取組の継続が期待できる。